茨木市立北陵中学校　全国学力・学習状況調査分析結果

令和３年１０月作成

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

（領域ごと）

①話すこと･聞くこと　概ね良好な結果であった

②書くこと　概ね良好な結果であった

③読むこと　概ね良好な結果であった

④言語事項　やや課題が残る結果であった

（問題形式）

①選択式　概ね良好な結果であった

②短答式　やや課題が残る結果であった

③記述式　概ね良好な結果であった

（無解答率）　概ね良好な結果であった

（その他）
･もっとも正答率が高かったのは漢字の読み書きの問題。
･もっとも正答率の低かったのはものの見方を問われる「記述」の問題。
･もっとも無解答率が高かったのはものの見方を問われる「記述」の問題。
･選択問題は無解答率はほぼ0。

分析
・話し合いに関する問題は正答率も高く、無解答率も低い。
・漢字の読み書きなど、基本的な国語の力は身についている。
・選択肢の問題の正答率は全国平均よりも高かったが、短答式・記述式の正答率に課題が見られた。これは自分の考えを言葉にする機会が少ないことに原因があると考えられるので、もっと日頃の授業から自分の意見や考えをまとめることが必要であると考えられる。今後は自分の考えをまとまえたり、相手に伝える授業を増やしていく必要がある。

○●数学●○

（領域ごと）

①数と式　概ね良好な結果であった

②図形　概ね良好な結果であった

③関数　やや課題が残る結果であった

④資料の活用　概ね良好な結果であった

（問題形式）

①選択式　概ね良好な結果であった

②短答式　概ね良好な結果であった

③記述式　概ね良好な結果であった

（無解答率）　概ね良好な結果であった

（その他）
・もっとも正答率が高かったのは「関数」の表やグラフから情報を読み取る問題。
・もっとも正答率の低かったのは「資料の活用」のデータから判断理由を述べる問題。
・もっとも無解答率が高かったのは「数と式」の数に関する証明問題。
・選択問題は無解答率は0。

分析
・計算問題は概ねできていた。無解答も無かった。
・関数の問題は、全国と比べるとできていなかった。
・記述式の証明問題は、手順をふまえて答えることが難しい。
・計算はできるが、文章問題になるとできなくなることが課題である。文章を読み取る力が必要。

文章に触れる機会や自分で説明する機会を取り入れていないのが現状である。 なので、「数学的な言葉を使いながら自分で説明する機会を増やす」「文章をしっかり読んで理解してから問題に取り組む」「証明なども手順を丁寧に説明し、諦めずに書ける」などを意識した授業をする。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析
Ｈ３１と比べて平均正答率は、国語は下がり、数学は上がっているが、全体としては高くはない。
国･数はともに記述式の正答率が低かったので、ペア学習や班学習を入れて、自分の考えをまとめたり文章を読み取る力をつけることが必要がある。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析
国語：高位層はあまり変わらず、エンパワー層が増えている
数学：高位層は増え、エンパワー層はあまり変わらない。
エンパワー層に向けて、授業の中でどのような支援が必要か考えていく必要がある。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み
①校内授業研修の実施
・全体の研究授業を年に１回実施。
・小中合同での研究授業を１回実施。（今年度は茨木市立山手台小学校にて）
・各学年での研究授業を実施。

②生徒が主体的に学ぶ授業
・ペア学習や班学習など、学び合いの場面をつくりお互いに高め合う。
・各学年「やる気スイッチ運動」の取り組みにより、授業にむけての意識を高める。
→「授業の準備を休み時間の前にする」「チャイム着席の徹底」など、取り組む内容は各学年で決定し、学級委員や班長を中心に声掛けを行う

③家庭額伊集の充実
・生活習慣の確立・保護者支援

④学習会の実施
・放課後学習会
・長期休暇中の学習会（各学年で日程は調整）
・提出物点検（定期テスト・長期休暇）

⑤朝読書の実施

⑥数学科・英語科での少人数分割授業（習熟度別指導）

⑦主体的な学びの視点を意識した授業づくり（ユニバーサルデザインを意識した授業づくりの推進）
→目標や授業の流れの掲示、板書と授業プリントが一致する　指示の明確化　などの意識づけ

⑧ICT を活用した授業づくり
・電子黒板と一人一台のタブレット PC の活用